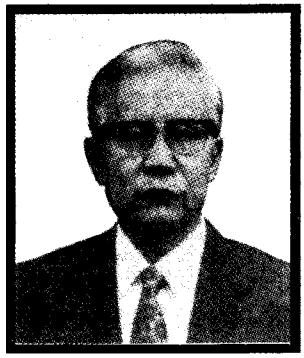
追　悼

藤代亮一元会長のご逝去を悼む



本学会の元会長であった大阪市立大学名誉教授藤代亮一先生が肺炎のため9月17日信州穂高でご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は大阪市立大学理学部を退職されるまで，常にご専門であった溶液熱力学の分野で指導的な役割を果たされ，本学会の発展にも尽くされました。

先生は1920年岡山県で誕生され，1941年東京帝国大学理学部化学科水島研究室を卒業された後，大阪帝国大学理学部副手として勤務された。

その後一時民間企業や香川大学・神戸大学に籍を置かれたが，1957年大阪市立大学理学部教授になられ，1977年に退職されるまで同大学教授として在任された。

先生は若い頃からあまりお体が丈夫でなく，主として理論面での研究をされ，実験面は弟子たちに任されることが多かった。先生の研究業績の中で，特に阪大時代に行われた2つの秀でた研究は忘れてはならない。一つは有極液体理論である。当時Onsagerの理論が脚光を浴びていたが，実在液体を充分説明できるものでなかった。先生はOnsager理論の問題点を明らかにする目的で，分子を回転楕円体とし，分子間会合も視野におき，分子の第一近傍の透電係数が観測するそれと異なるものとして取り扱われた（1944年)。もう一つの研究は溶液の熱力学的性質として当時エネルギー的効果が強調されていたが，エントロピー効果の重要性を指摘された（1944年)。これらの研究は第二次大戦中で我が国は国際的に孤立しており，諸外国の情報がほとんど入手できない状況であった。また，出版事情も極端に悪く，国際誌への投稿が困難な時代で，上記の優れた研究はあまり注目されなかった。特に後者の研究は，FloryやHugginsらが高分子溶液理論を展開した時期と同時代であっただけに，先生としては非常に残念に思われた事と思います。

先生は教育に非常に熱心であり，学生と対話しているときが最もリラックスしておられたようにお見受けした。先生が学生のための教科書として多くの物理化学の著書や翻訳書を書かれ，好評であったのも先生の人柄がそれらの書物に凝縮されているためと思います。

先にも触れたように，先生は病弱のため，積極的に表に立ち，指導されることは少なかったと思います。本学会からも割合早い時期に退会されましたが，お会いするといつも学会のことを気遣っておられた。茲に生前賜った数々のご厚情・有益なご教示に深く感謝し，ご冥福をお祈りします。

（村上幸夫）